

(技術名) クビレオゴノリ海面養殖試験における食害生物							
(要約) 知念、宜野座、大宜味、久米島、石垣島の5海域における養殖試験でのクビレオゴノリ食害生物として、 <u>アメフラシ類</u> 、 <u>フトコロガイ</u> 、 <u>ハタタテギンポ</u> 、 <u>ニジギンポ</u> 、 <u>アミアイゴ</u> 、 <u>テングハギ類</u> を特定する。							
水産海洋技術センター海洋資源・養殖班					連絡先	098-852-4531	
部会名	水産部会	専門	養殖	対象	クビレオゴノリ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

水産業を支える基幹産業のモズク養殖では、生産量の年変動が激しく、漁家経営安定化に貢献できる新たな海藻類養殖の導入が求められている。その対象種として2013～2015年の間に養殖試験を実施したクビレオゴノリは、海洋生物による食害を受けやすいことが明らかになっている。そこで本研究では、安定的な養殖技術確立を目的に、食害生物を特定する。

[成果の内容・特徴]

1. 藻体を食害する生物の特定は、潜水観察調査、食害実証試験、捕獲した生物の胃内容物調査、自動撮影写真判定調査により行う。
2. 潜水観察調査では、アメフラシ類、ハタタテギンポ、アミアイゴを特定する(図1、表1)。
3. 食害実証試験では、フトコロガイを特定する(図1、表1)。
4. 胃内容物調査では、ニジギンポを特定する(図1、表1)。
5. 自動撮影写真判定では、久米島において2015年11月4日～12月17日に述べ日数11日、計4回の写真判定によりテングハギ類を特定する(図1、表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 食害生物種の特定は、クビレオゴノリ養殖の食害防除策を考えるうえで貴重な情報である。
2. 養殖試験は、2014年10月～2016年5月に知念、宜野座、大宜味、久米島、石垣島の5海域で行う。養殖環境は、モズク養殖漁場に隣接し、リーフ内の水深2～4m、砂の底質、離岸距離100～700mの海域である。そのため、11～5月以外の期間、あるいは他の海域でクビレオゴノリ養殖を行った場合には、新たな食害生物が出現する可能性がある。

[具体的データ]

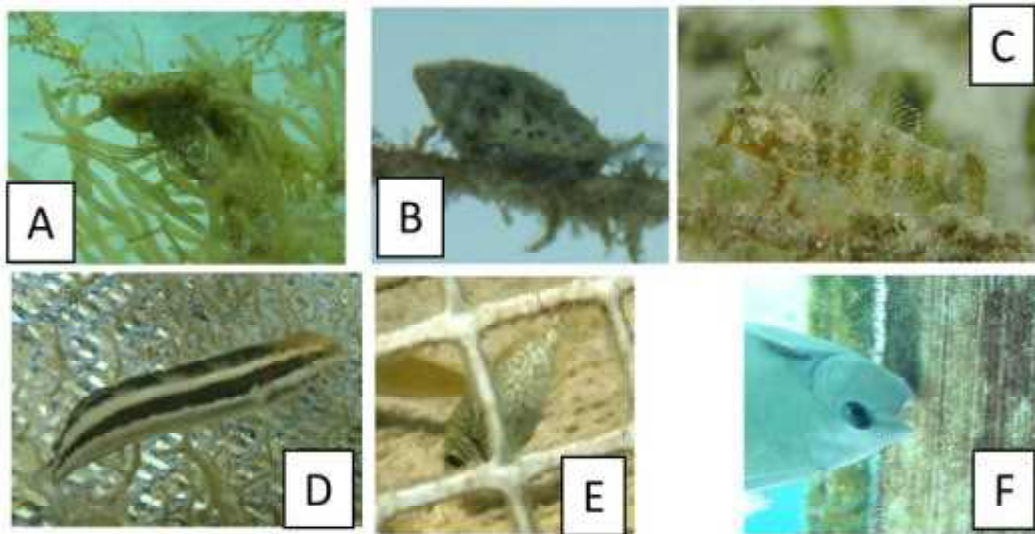


図1 養殖クビレオゴノリの食害生物

A: アメフラシ類 B: フトコロガイ C: ハタタテギンポ
D: ニジギンポ E: アミアイゴ F: テングハギ類

表1 食害生物の観察海域と時期および生物サイズ

種	アメフラシ類	フトコロガイ	ハタタテギンポ	ニジギンポ	アミアイゴ	テングハギ類	
生物サイズ mm	15~50	殻高 20~30 殻幅8~10	40~60	40~70	-	-	
観察時の藻体 サイズ	100mm~	数mm	常に	常に	-	-	
観察時期	藻体サイズ に依存	藻体サイズ に依存	常に	常に	9月と10月	11月と12月	
観察 海域	知念	+	+	+	+	-	
	宜野座	+	+	+	+	-	
	大宜味	+	+	+	-	-	
	久米島	+	+	+	-	-	+
	石垣島	+	+	+	-	-	-
特定方法	観察	実証	観察	胃内容物	観察	自動撮影	

[その他]

課題ID: なし

研究課題名: 太陽の恵み利用型養殖実用化事業

予算区分: 沖縄振興特別推進交付金(国庫)

研究期間: 2014 ~ 2016年度

研究担当者: 井上 顕

発表論文等: 井上 顕 (2017) 2015 ~ 2016年におけるクビレオゴノリ養殖試験(太陽の恵み利用型養殖実用化事業)、沖縄県水産海洋技術センター事業報告書 77 印刷中